

エクストリームシリーズ 2018 奥大井大会

■奥大井大会 3名カテゴリー 優勝チームコメント

チーム・コナ・ウィン 道向 修さん

ここ何年も TEAM KONA WIN として年間エントリーをしてきたが、今シーズンは ARJ に別々のチームで出場するためにそちらを優先、最終戦が唯一の参戦となった。毎年傾向として奥大井は暑く、パワーコースということもあり、オリジナルメンバーの幹久は今年もレース前から逃亡。ということで、ARJ で久しぶりにチームを組んだクボちゃんに参戦して貰い、いつもの真樹ちゃんを加えての参加となった。

チームの目標は、「怪我無く、早く上がって、美味しいビールをたらふく飲もう」というもの。順位はどうであれ、無事にレースを終えることは自分やチームにとっても、またレースに参加する全てのチームや運営スタッフにとっても重要なこと。

出だしのチームチャレンジは、4.5 番手で終了。だるまさんがころんだ世代？の僕らにとって、まあ、ちょろいもの？だったかな。初めのセクションは順不同でのトレッキング。表彰式後のクボちゃんの解説にもあったように、出だしの尾根の斜度と中間点の CP2 が鞍部であるということも考慮して、CP3 から入ることにした。多くのチームがこの選択をするだろうと思っていたものの、先頭集団は皆、国道を出たところで逆方向へ…。こうした場合、チームが立てた計画が本当に正しいかったのか？という迷いが生じることが多々あるものの、この仲間が納得してのコース選択だったので、今回それは全くなし。ほどなく CP3 をゲット。次の CP2 への登りでは、縦の尖った葉には閉口したものの難なくクリア。この時点で後続をかなり引き離したと思っていたが、CP2 で 2 チームに追いつかれたのには驚いた。CP2 からはコンタリングして CP1 に向かう尾根に向かった。ガレた斜面だったので、滑り落ちながらのコンタリングだったが直ぐに尾根に取り付き CP1 もゲット。トップで MTB セクションへ。

MTB は奥大井にしては、程よい登りの楽しいコース。ましてや雨量の影響で、道は川と化し、沢と言う沢はおそらく普段では見られない程の立派な滝となっていて、暑い印象の強い奥大井と反し、マイナスイオンを身体中に浴びて疲れも感じない。トンネルも面白かったなあ。ただ単のパワーコースではなく、自然の雄大さとそれを楽しめるコースだったと思う。でも濡れた路面は滑りやすく、以前奥大井の下りで落車して両手の親指付け根を骨折した経験のある僕は、2 人に遅れてのそろそろ下り。でも怪我せずビールというコンセプトを唱えながらどうにか国道へ。怖かったあ。

次のセクションは、久しぶりの寸又峡。順不同のオリエンだが、CP10 から順番に CP12 まで回ることに決めた。CP10 に向かう登山道脇の図書館で 300 円のサイダーを購入し、チームチャレンジの束縛から逃れる。CP10 の登山道を神社に下ると…。周りの売店は 300 円の抹茶ソフトの看板だらけ。これを食べさせようとしたのかと納得したけど、先を急ぎ CP11 のつり橋へ。以前は物凄く美しい景色と思いながら渡った橋だが、今回は濁った濁流の上に掛っている心もとない揺れる橋。ましてや橋の端は苔むして滑る滑る。ひるんでいる他チームに道を譲ってもらい、小股でダッシュ。さあ後は CP12 を取って、バイクで終了と思っていた矢先…。今回唯一のミスが発生した。CP12 が沢沿いの道に付いていると思い込み林道を突き進んでいると、左手に先ほど MTB で通った国道が見えてきてしまった。これはどう見ても行き過ぎ。慌てて引き返し、地図通り沢沿いにある CP12 をゲット。CP13 に戻ってみると、このミスがありながらどうにかトップであることが分りー安心。

ラストの MTB セクションは、CP14 まで登れば後は下り基調。CP14 までが最後の正念場とペダルを漕ぐ脚に力を入れる。CP14 を取っても全員がまだまだ余力を残している。CP15 に降りる激坂を上り返すのが嫌で、CP15 からは湖畔道を伝い国道に戻ろうと画策するも、CP15 の先は崩落していて先に進めない。仕方なく CP15 に引き返し、やむなく最後の坂を上る。この辺りで後続との差が分るのでと、ドキドキしながらすれ違いを待つ。上りきる手前で、2 位に着けているチームとすれ違う。「大丈夫 10 分は先行しているな」と、ひとまず安堵。CP16 は、ダムを過ぎた後の 2 つ目のトンネルを抜けた左手の林道沿い。2 つ目のトンネルを抜ける手前で、先頭を走るクボちゃんが左に曲がる合図を出す。ところが…。左手にはガードレールが設置されており、道がない。橋の途中で一旦ストップして地図を確認したが、やはり林道はトンネル出口の左脇。MTB を降りて橋の下を覗いてみると、道らしきものが見える。これが CP16 に向かう林道だ。MTB を担ぎ下ろし、最後のポイントに向かう。大雨の中 CP16 を取り、フィニッシュへ。

さて、今回の奥大井におけるレース展開はこんな感じ。ここからはレース以外で感じたことや思いを少しばかり。今回のレースで驚いたのは、アドベンチャーレースが初めてという人が多かったこと。僕が今まで出場させて貰ったレースで一番多かったかもしれない。エクストリームシリーズにも参戦する EAST WIND の田中正人さんや陽希君のメディアへの露出や素晴らしいレースを提供してくれる多くのレース関係者の努力の賜物なのであろう。アドベンチャーレースをこよなく愛す、我々にとっても嬉しいことだ。アドベンチャーレースの醍醐味は、(これらが全てではないけれど)雄大な自然の体感、普通の生活では経験できない非日常体験、自分との戦い、そしてチームの仲間との協力とそこで育まれる連帯感ではないだろうか。そうした醍醐味を感じてくれたら、今回初めて参加した人にもまた直ぐに会えるのだと思う。今回の奥大井は時折大雨という悪コンディションの中での開催とはなったが、MTB スタートから CP7・8・9 と続く林道は上り基調であったものの、雨量が多い故に見ることが出来た多くの幻？の滝や川の中を走ると同様の路面コンディションだったり、難易度を鑑みた上でも初心者の人にも面白いコースだったのではないだろうか。雨で滑りがちであったものの、初っ端の山も道なき道を進むというアドベンチャーレースならではの醍醐味であったと思う。そういう意味では、全体的にパワーコースでありながら、初心者からベテランまで楽しめたコースであったと思う。「景色を見るなんて、そんな余裕なかった」って言うのは幹久だけの戯言として聞き捨てておこう。でも万が一そう思った人がいたら次は景色も楽しんで欲しいと思う。おそらくそのくらいの余裕を持てるペースでレースを進めていくことが、結果的にチーム全体として早い時間でフィニッシュできる極意かもしれない。頑張ることは必要だけれど、無理し過ぎは時にはマイナス要因になるってこと。

レースが終わった後に「どうしたら表彰台に上げられるようになるのか？」という質問を貰った。そう言えば僕も初めてのレースは奥大井で、完全完走できなかったなあと懐かしく思い出した。初めの数回は完走できなかったと思う。それでもレースで体験できる非日常がたまらなく面白かった。藪を漕いだり、道の無い崖を下ったり、MTB を担いで山を登ったりね。速いチームの後ろに、地図を読める振りについて行ったりもしたな。でもそれじゃあ面白くなくて、地図が読めるようになるようにレースが終わって家に帰ってから何回も地図を眺めたっけ。「あーすれば良かった」「こうすればよかった」ってね。後は速い人を捕まえて話を聞いて、色々教えて貰った。アドベンチャーレーサーは優しい人が多いので、聞けば聞くほど親切に教えてくれる人が多い。レースという競い合いの中にいるものの、皆、仲間だと思っている人が多いからかな。じゃあ、どうしたら表彰台に上げられるようになるのか？まずは弱点を克服すること。地図読み、体力、種目別のスキル。これらは、習ったり、トレーニングしたりで克服できる。さて僕が考える一番重要なファクターはチーム力だと思っている。信頼感、思いやり、助け合い、高め合い、共有、役割、叱咤激励…。それぞれが同じ目標に向けて、仲間のために今何ができるかを考えて行動に移すこと、これが自然に出来るようになれば表彰台に立てる日は近いと思う。チームスポーツの殆どは、強い人が集まれば必然的に強いチームが出来る。でもアドベンチャーレースの面白さの一つは、一人では勝てなくてもチームで勝つことのできる数少ないスポーツであることだ。如何に仲間を信頼し、助け合い、レースを楽しむことで順位は上がっていく。そうした楽しみも是非味わって欲しいと思う。でも本当は勝てなくても表彰台に上げなくてもいい、チームで力を合わせ、掲げた目標に少しでも近づき、少しでも越えることが出来たら、それは素晴らしいことだと思う。表彰台はそうした目標の一つに過ぎないから。

さて長くなったけど最後に。

本当に今回のレースも楽しかった。こうした充実した時間を過ごせるのも、大会を作り、僕らに提供してくれるスタッフの方のお陰だと思う。今回のように時には悪天のためにコースが短縮されることもあるし、CP と地図の関係におやっと思ふ時もある。それはレーサーに対する安全配慮であったり、人間故の間違いであるかもしれない。時には不平不満を持つ人もいるだろう。でもレースがあるからこそ、僕らは仕事やしがらみから解放されアドベンチャーレースを楽しむことが出来るし、多くの仲間を作ることも出来る。主催者もレーサーもアドベンチャーレースが好きだから、そこに集うのだと思う。

これからもアドベンチャーレースを楽しむために、またこの楽しさを多くの人に知ってもらえるために、僕らは主催者に感謝し、リスペクトすべきだと思う。

我部さん初め、スタッフ、ボランティア、スポンサーの方々本当に有難うございました。来年からも引き続きよろしくお願い致します。

TEAM KONA WIN 道向 修